

いしん

Vol. **99** 2015. 11 (隔月刊)

社会福祉法人 一心福祉会

<http://www.isshinfukushikai.or.jp/>

祝海神祭 歓迎
屋古

塩屋湾海神祭にて
撮影者：山内 美園
※トピックスに詳細が掲載されています。

リレー連載

地域社会の一員として！ グループホーム『ウェーブ』

ドキュメント 一心福祉会 ⑬

住宅地にグループホーム、 民家を借用して開設

山城 豊



地域社会の一員として自立生活をおくることを目的に、知的障害者地域生活援助事業として平成十六年三月に障害者支援施設としての里がバックアップ施設として運営する知的障害者グループホーム「ウェーブ」（定員四名）が、大宜味村字津波の住宅地に一軒家（コンクリート造二階建）を借用してのグループホーム開設でした。

開設から十年余が経過しましたが、顧みると支援費制度がスタートした直後のこと、グループホームは当時「脱施設」の流れが加速しつつある中で「入所施設から地域へ」と利用者本位の障害者

福祉サービスが提唱され、その地域生活支援システムのひとつとして生活の場であるグループホームが注目されニーズが高まっていた。

えすの里の利用者の中にも少なからず「地域で暮らしたい」「地域で働きたい」という想いを抱いている利用者の皆様の夢と希望が叶えられ、グループホームでの新たなライフステージの第一歩がはじまりました。

開設当初は、利用者が生活に慣れるまでのしばらくの間は、不安を解消するために職員が輪番制で寝食を共にして、グループホームでの生活を軌道に乗せていきました。

利用者からの声として「最初は自分たちで生活するのは不安であったがそれより楽しみやワクワク感の方が大きかった」等の声が聞かれました。

また、当法人の元理事で当時の津波区長であられた前田松雄氏には住宅探しにおいてもなかなか条件の見合う住宅が見つからず苦労をかけたことと、地域の住民の方々からグループホームを理解していただくために大変お世話になりました。

社会福祉基礎構造改革以降、「障害者の地域生活の実現」は現代の社会福祉施策における中心的理念のひとつで、当法人においても福祉サービスの供給体制の整備及び充実を図るために、今日までは賃貸住宅を借用してのグループホーム生活から新たに国道58号線に面した大宜味村字津波区に法人で土地を確保して、全額自己資金により「グループホーム・ケアホームえすの里」（定員十名）を新築し平成二十四年四月にオープン、更に障害者自立支援基盤整備事業の助成を受け平成二十七年四月には隣接して二棟目のグループホーム（定員十名）が竣工の運びとなりました。

開設当初の定員四名から現在では二十名の定員となり、グループホームが地域の拠点としての役割を担い、利用者の皆さんにとりまして成長の場、自立の場としてより一層発展することを願います。

一心療護園施設長

一心福祉をもっと身近に！



一心福祉ホームページ公開

<http://www.isshinfukushikai.or.jp/>

えすの里

去った十月十五日、一心福祉ホームページ（以下、HP）を公開致しました。

制作期間は五ヶ月。当初、法人全体のHPの制作を任せてもらえると言う事もあり、自分に対する期待と不安、プレッシャーから複雑な心境となりました。また、作業を進めるなか、支援業務の両立とデータのボリュームの多さから、いつ「公開できるのか？これで大丈夫なのか？」自問自答する日々も続きました。ですが同じ支援課の仲間を中心に、利用者さんの生活支援や作業などフォロー、サポートしていただき、HP公開にこぎ着ける事ができました。

HPと言うメディアを使い、自由に編集したコンテンツ（情報）を公開することができます。365日24時間、幅広い端末（パソコン・スマートフォン・タブレット）操作し、施設の様子や活動、取り組み状況など文章や写真をインターネットを通じて閲覧、見ることが出来ます。使い方、運用次第では利用者さんの家族や関係者、ユーザー（閲覧

者）と双方向で繋がることも可能です。

まだまだ、コンテンツ不足は否めませんが、広報誌メンバーの皆さんと連携、相談しながら内容を拡充させ、できれば「動画配信も？」と願望も抱いております。

見ている人に「一心福祉をもっと身近に感じてもらう！」そんな思いを込めて制作しました。

HPでは施設情報や活動、地域情報も含め有益なもの、

ワクワク、ドキドキするようなものまで公開、発信します。気軽に訪問（アクセス）、お立ち寄りください。

最後に、HP制作にあたり施設への取材や、資料の準備を快く受けてくださった各施設の職員の皆様、また利用者の方の身辺・作業支援など現場でのサポート、応援してくださった支援課メンバー、大変感謝しております。本当に、ありがとうございました。

砂川 和真

現場レポート②

～虐待防止を未然に防ぐ取り組み～

みんなの心をひとつに！

えすの里

新体系へ移行して三年、生活介護と施設入所支援のサービスを提供するに当たり、今まで以上に職員間での情報の共有や利用者さんの健康状態・支援状況の把握が必要と感じていました。また虐待防止法も制定され、より職員の共通理解や意識改善が必要となった事を受け支援課の職員全体で話し合い、毎週金曜日の17時～17時30分にショートミーティングを実施する事を決定しました。

ミーティング内容としては翌週の作業内容の確認、利用者の現状報告、困っている状況を報告してもらい、提案、



細かな事もみんなで確認

改善策などについて職員で話し合います。また、虐待防止策として入浴支援中に気になったアザの確認（何処で出来たアザなのかを全体で把握する）や言葉の使用方法について話し合いを繰り返し行い虐待を未然に防ぐ取り組みとしても機能しています。ショートミーティングを行う事で、日中・夜間での職員、利用者さんの状態が共有され、利用者さん一人一人に適切な支援や業務中の連携が上手にいくようになり、またまわりが出てきた事を実感しています。

今後も職員の心をつにつけて、より良いサービス提供が行える様、ショートミーティングを活用して行きます。



風車・米寿合同祝いの

やんばるの家

十月四日にやんばるの家に
て風車・米寿合同祝いが開催
されました。

風車祝いの者

中村枝美様 (東村川田出身)

金城ツル様 (東村平良出身)

金城ウト様 (東村平良出身)

米寿祝いの者

吉田東弘様 (大宜味村津波出身)

四名を家族と共々祝う事が
できました。

地域行事と重なり来賓の参
加が心配でしたが大勢の家族
や地域の皆様の参加があり、
祝いの者の明るい笑顔が見られ
ました。約二時間の、お祝い
でしたが、あつと言う間の時
間でした。余興に参加くださ
いました。家族の皆様大変お
疲れ様でした。



金城ツル様家族



吉田東弘様家族



金城ウト様家族



中村枝美様家族

東村敬老会

小規模 あがり

九月九日(水) 東村農民研修施設にて、東村敬老会が行われました。

村内出身の敬老者約二〇〇名が参加し、歌、踊り、演劇の余興で盛り上がりました。

また、あがりからは、石原チエ子さん(有銘出身) 比嘉美代さん(平良出身) 肥後澄さん(宮城出身) 三名が八十八歳のトーチカ祝いに参加し、久しぶりに会う友人と懐かしい話をしながら、笑顔溢れる敬老会でした。

石原チエ子さん、比嘉美代さん、肥後澄さん、トーチカおめでとう!

宮城 敏也



村長より記念品を頂く石原チエ子さん

誕生会企画

デイサービス

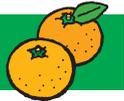
デイサービスでは、毎年利用者の誕生日に企画を変えて、カードにメッセージや、写真等を載せプレゼントをしています。サプライズのプレゼントになり他の利用者、職員の皆さんからハッピーバースデーの歌を唄ってもらいとても喜ばれています。本人や家族も誕生日を忘れていた事もあり家族の方からもありがたうと、感謝の言葉を頂きました。幾つになっても自分の誕生日を祝ってもらう事はとてもうれしいと思います。

仲村 君代



家族・本人様より大変喜ばれています。

みかん作りの思い出



小規模いっしん利用者 池原 ユキさん (95才) 田嘉里区

五十代から八十五歳位まで、みかん作りをしていました。温州、

たんかん等を作っていました。ナガバと呼ばれる下

に畑がありました。集落の中で池原米子さんと私だけが女

でみかん作りをしていました。主人は酒屋、米子さん

のご主人は養豚をやっていたから、普段

は一人でやって、収穫の時や草刈りは人を雇っていました。謝名城の女の人六名くらいお願いしてしま

した。あの道から自転車です。慣れたらどうもなくなりまし

た。掃除するのは自分一人で鎌でやっていましたが、池原安久さんが草刈り機を買ってきて、使っているのを見て「ダア、私もやってみよう」と借りた

ら、できた。それで草刈り機を自分も買ってきて、あれからずっと使いました。女でも草刈り機を使えたのはそんなにいい。後から米子さんや外間政子さんも使い始めました。ハブも草刈り機でいく

ら殺したかわかりません。消毒はドラム缶をおいて雨水をためてやったが、後からは水道を引いたからタンクに

た。掃除するのは自分一人で鎌でやっていましたが、池原安久さんが草刈り機を買ってきて、使っているのを見て「ダア、私もやってみよう」と借りた

ら、できた。それで草刈り機を自分も買ってきて、あれからずっと使いました。女でも草刈り機を使えたのはそんなにいい。後から米子さんや外間政子さんも使い始めました。ハブも草刈り機でいく



75才の頃、孫の文子さん(10才)と一緒に

なりました。主人が葉はくから入れなさいと教えてくれました。

みかん運びは、急な坂から少しづつ運びました。昔は馬にそりをひかせていたから、道に穴が開いていて、道を直してからはトラクターを借りて運びました。車の上

のようになったから、肥料もみかんも運搬するようになり、楽になりました。主人は車の運転が心配になったから、三男が運んでくれるようになりました。

農協にも出荷したが、横田さんという方も買いにいらしていました。みかんは儲かりました。家も作りました。今でも息子が「お母さんがみかん作ったから、家は作られたんだよ。」と言ってくれます。

みかん代が入る時は楽しかった。みかん組合の会合は村中の組合員が、名護に行つて、会合してごちそうをいただきました。米子さんと参加するのが楽しみでした。

時々長男にみかん山に行つてみようかと言うけど、「今は道が全然歩けないよ」と言われるが行つてみたいですよ。

聞き書き文責・安里美紀

狭間仲良し 二人展

ディサービス

第四回目となる、絵画、写真、作品展示会を特別養護老人ホームやんばるの家、併設のデイサービスで八月十七日より三十一日の期間で、今回は、施設近隣の定住促進住宅に住む、村内喜如嘉区出身の二名が「狭間仲良し二人展」と題し開催しました。

前田幸輝さん、沖繩戦十・十空襲の絵、風景画、写真、各種の三線を展示、宮城和邦さんは幻想的な絵を展示し、開催中に村内外より百五十名余が訪れました。

来訪者、デイ利用者の皆さんからは「小さい頃から絵が得意だった和邦さん。今も書き続けていて感動しました。」



ディサービス利用者も興味深く見入ってました。



左から、宮城和邦様 前田幸輝様

「前田さんの歌、踊りは見聞きしていましたが、絵も素晴らしいですね。」「絵から大意味をとでも愛しているということが伝わってきます。自分もこんなに素晴らしい方々に負けずに暮らそうと思います。」などたくさん感想がよせられました。

嘉陽 静枝

「いっしん会」結成初訪問

小規模 いっしん

平成二十七年九月十八日に敬老会をやると言うことでいっしんを慰問しました。数年前から「志良堂清邦会長、宮城広実、辺土名良一」さんの三名の方は村内を中心に慰問をしておられたようです。そのお話をいっしんの職員に触れてみたら「いっしん」もお願ひしますと依頼がありました。一ヶ月過ぎた頃、緊急に「ゆりていく会」を結成しその日を迎えました。ゆりていく会はお互いが楽しみで寄り添いながら時を過ごすの意味です。四名で練習なしの即興で歌、三線、サンバを披露しました。未熟な面も多々あったとおもいますが、地域の方や職員も参加し、数時間を楽しく過ごしていました。三線独奏、カチャシーを踊ったり、例えば口は聞けなくても、瞬きしながら、個々の表情がはつきりわかりました。曲に合わせて終始元気に踊っておられる方もきつと、昔を思い出したであろう。懐かしい歌

を三線で弾いたりそれに合わせて歌ったり時間があつとう間に過ぎました。会長さんの狙いである「誰にも分け隔てなく楽しく」がほぼ達成されたと思います。急で未熟な面も多々あったと思いますが、今後は練習を重ね更に磨きをかけて楽しい雰囲気作り頑張りたいと思います。

ゆりていく会 吉田 春子



ゆりていく会メンバーの方々

名桜大学生実習

小規模 あがり

九月二十八日～三十日の三日間、小規模多機能ホームあがりで、名桜大学看護学科から実習生が来ました。

最初は、慣れない更衣や食事介助などで戸惑う部分もありましたが、あがりの職員、利用者が明るく接するうちに実習生も笑顔になり、積極的にコミュニケーションが取れるようになりました。

今回実習に来られた生徒さんからは、「勉強になりました。将来役立てます。」と充実した三日間を終えて行きました。

池原 さゆり



実習生と会話を楽しむ様子

社会参加活動

練習の成果発揮

一心療護園

第五十一回を迎えた、沖縄県身体障害者スポーツ大会に四名の方が参加しました。

新しい施設へ移転し、居室内にあるウッドデッキで西日を遮り過ごしやすい環境で練習できるようになり、以前よりも練習時間を多く取る事が出来いざ本番を迎えましたが、四名中一人の方が銅メダルを獲得されました。

しかし、初出場の方を含め練習より良いタイムでゴール出来た事は自信に繋がるものであると感じました。



緊張したけど、がんばりました。

塩屋海神祭見物

やんばるの家

九月八日、塩屋出身の利用者を中心に海神祭を見物に行きました。田港のハーリー迎えの女性三〇名が、踊りと歌で迎えてくれ利用者も満面の笑顔で踊りや歌を皆で楽しみました。ハーリーが始まると地域の方や家族と共に各区のハーリー競争の応援に熱が入りました。



二時間程の活動でしたが、笑顔の絶えないひと時を過ごすことが出来ました。



一緒に踊りましょう！



昔は田港のハーリーの舵取りをやったよー

中秋の名月見事！

一心療護園

近年、雨に泣かされてきた一心療護園の観月会でありましたが、今年は見事に晴れて素晴らしい月をバックに、美味しい料理や生ビールに舌鼓、カラオケ大会等で大盛り上がり観月会となりました。



見事な月をバックに熱唱♪

就労センター えすの里



トピックス

塩屋湾 ウンガミに貢献

国指定無形文化財に指定されている豊年祈願祭・塩屋湾のウンガミ（海神祭）、その歴史は 400～500 年と言われています。今回、カミンチュ（神女）が乗った駕籠を担ぐ人の人員が不足している事から就労センターえすの里の職員（1 名）・利用者さん（2 名）がその役割を担いました。事業所としても地域の一員として伝統ある地域行事に参加できとても良い経験になりました。

チームえすの里が躍動！！

九州地区親善球技大会



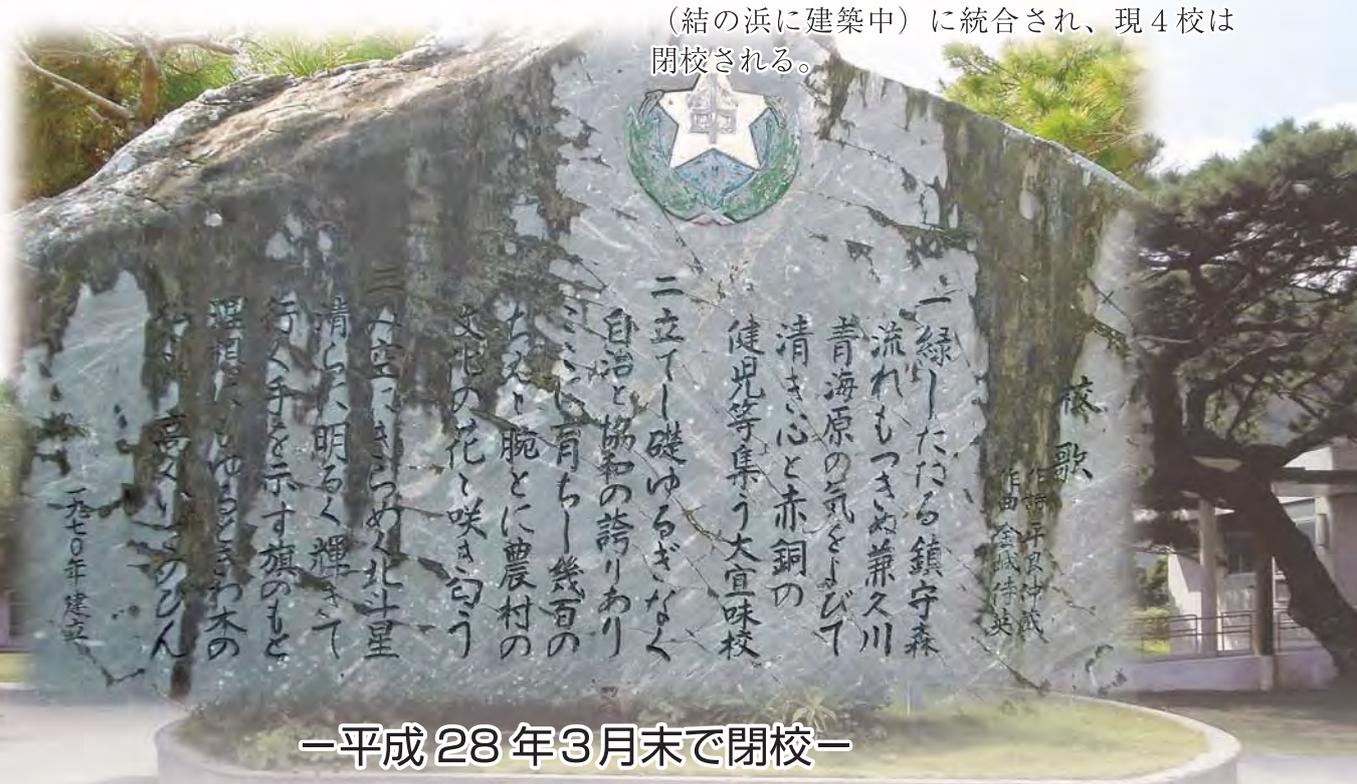
練習通り頑張りました！！



九州大会も笑顔で楽しみました♪

～大宜味小学校の校歌～

大宜味村の小学校は、平成28年度から1校（結の浜に建築中）に統合され、現4校は閉校される。



校歌
作詞 平良伸成
作曲 金沢待英

一 緑りたる鎮守森
流れもつきの兼久川
青海原の気をよびて
清き心と赤銅の
健児等集う大宜味校

二 立てし礎ゆるぎなく
自治と協和の誇りあり
まはるに育ちし幾百の
なまこ腕とに農村の
文化の花と咲まじう

三 空にきらめく北斗星
清らに明るく輝きて
行く手を示す旗のもと
温厚にのびるまわりの
喜ぶるあひん

一九七〇年建立

—平成 28 年 3 月末で閉校—